

# Rikkyo Club of Executives & Professionals 立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：和田成史 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <http://www.r-keizaijin.net/>

## 2017 新春名刺交換会



2017年2月1日(水)、毎年恒例となる新春名刺交換会が日比谷松本楼にて開催されました。

18時からの第1部講演会では、株式会社豆蔵ホールディングス 代表取締役社長 萩原紀男様に「AIが創る未来」と題して約1時間にわたりご講演をいただきました。昨今話題となっているAIが発展した先に待っている未来予測について、ご自身の見解をユーモアも交えながらお話をいただきました。難しい専門用語が多くなりがちなお話を、非常にわかりやすく面白おかしくお話いただきましたという間の1時間でした。

続く19時より第2部の新春名刺交換会がスタートいたしました。会員91名に加えて、来賓23名、ゲスト6名をお迎えし、総勢120名の参加となりました。

湯浅総務委員長の司会の下、先ず、和田成史

立教経済人クラブ会長より開会のご挨拶を頂きました。

本日の講師萩原先生は、ソフトウェア協会では、和田会長の後任の会長であり、今国会で、中小企業のIT化を促進する補正予算が成立した中、同業界として応援して行きたい。また、英国のEU離脱、トランプ大統領の誕生など、正解政治情勢は不透明な状況。IT業界も、本日の講演でもあったとおり、IOT、AIの発達により、データが新しい解決策をプロデュースする時代であり、2045年問題といった人間との競争が言われており、過去のITバブルのときは違い先が見通せない状況。こうした中足元の1日1日の積み重ね、今を大切にしていくことが必要だと思っている。政治経済界では変化がありそうな新しい年だが、人と人とのつながりを大切に、チーム立教の精神で日々まい進していきたい。とご挨拶をいただきました。

続いて、ご来賓を代表して、立教大学総長 吉岡知哉様よりご挨拶を頂きました。

早くも2月となり入試のシーズン。今年は志願者数が昨年比5%ほどアップの予定だが、来年からは18歳人口が急激に減少する予定で厳しい環境が予測されている。そうした中、立教大学では、本年4月より国際化の一環としてGLAPというカリキュラムが初年度20名でスタートする。また、2003年から続けてきた陸前高田市との交流を、岩手大学と3者で陸前高田グローバルキャンパス

を開校することになり、復興、街づくりから協力をしていくことになった。更には、これまで学生の就職状況、科学研究費の採択率が私学の中でトップであるといったようなすばらしい実績があるにもかかわらず、なかなかアピールができていなかったが、今年は広報に力を入れて良い成果をアピールしていきたい。とご挨拶いただきました。

引き続き、湯浅総務委員長よりご来賓のご紹介、新入会員の紹介と記念撮影を行い、乾杯へと移りました。

乾杯のご発声は、曾山茂立教大学校友会副会長が、校友会員が本年度の卒業生が加わると20万人を超え、青山学院、上智大を上回る中規模クラスになる。但し、住所の不明率は3割であり、これは早稲田、慶応などと比べると半分以下の良くない値であり、下げることが目標にしていきたい。また、池上彰氏客員教授の公開講座の話にふれられ、池上氏と関係の深いテレビ東京の福田裕昭氏は立教大学のOBであることをご紹介いただき、高らかに乾杯を行い歓談となりました。

ローストビーフ、カレーライスなど松本楼の名物料理をはじめ、おいしい食事とお酒を頂きながら、様々な業種、年齢の垣根を越えて情報交換が活発に行われておりました。最後は、上原洋一副会長の中締めをしていただき閉会となりました。

一品川 高穂 H8済一

## 新春名刺交換会講演会

## 「AIが造る未来」 講師：荻原 紀男氏

AIが造る未来と題して、技術的なお話よりも私自身がひらめいたこと、神が降臨したようなお話をさせていただきます(笑)。

## IoT・Big Data・AI

機械等にセンサーを取り付け、全ての情報を吸い上げるIoT、その要不要を含めた大量な情報を集めたものをBig Dataといい、大量の情報を処理、分析して新しい結果を導き出すAI。この3つが大切な点になります。

## 機械学習、ディープラーニング

機械学習は、大量のデータを解析してその結果から、確率的な予測や判断をおこなう仕組みになります。ディープラーニングは、確率というような数学的な範囲に止まらず、あたかも人間の脳のような働きで、例えば、音声や画像認識といったところまで更に深いレベルで学習して精度を上げる仕組みです。

こうした、AIの時代に必要なスキルは、英語(プログラムは英語で書かれています)、IT(情報はネットを介するため)、SNS(私は時間が無く対応できないのでやらないが・・・発信することで連携が生まれる時代です)というようなものになるでしょう。

## ブロックチェーン

今後、PCや携帯電話など、あらゆる端末同士が常につながっている状況になり、何をしてもデータとして記録が残り、証明となる時代がきます。嘘をつけないすごい時代になります。

## 2045年問題

2045年は、人工知能が人間を超えるといわれている年です。こうした時代になると、AIと共存できる人は成功者と呼ばれ、AIに反抗する人は犯罪者と呼ばれ、AIから逃避する人はAIの支配下に入ることになります。

AIの発展によってなくなる仕事は、もの凄く沢山の領域に及ぶでしょう。トランプ大統領が国境に壁を造るのは、AIの成長を予見してのことであつたらすごいことです。アメリカは人口も多く、AIの成長により失業者が大量に生まれることを危惧してこれ以上の人口流入を止めようとしているならば、という話ですが・・・。

AIの成長により新たに生まれる職業は、AIインストラクターや、単純化の専門家といった、人工知能相手に色々なことを教える職業や、輸送アナリストのように、自動化されたものを管理する職業があげられるでしょう。そして、私も狙っているのですが、マインドインストラクターといった、AIの成長により人間の価値観が変わる世の中で、内面的な豊かさをカウンセリングするような職業が出てくると思います。

## 企業活動の変貌

精度の高い計画・予算はAIが行うようになります。いわばAIが役員や顧問のようになり、社長の役割から経営管理が外れるようになるわけです。ある意味、社長の仕事は楽になります。実際に、オルツという人工知能のベンチャー企業では社長の分身ロボットを作って研究しています。

また、内部統制、運用、内部監査をAIが行えば不正は瞬時に見つかるようになります。人事面では、適材適所はAIが見つけてくれるようになります(これも、セプテーニ・ホールディングスという会社が既に行っている)。こうなると社長の仕事は、AIを超えるビジネスを創造することであり、非常にタフなことになるでしょう。一方で、従業員は、AIへの劣等感から閉塞感が蔓延し、ストレスマネジメントが必

要なるでしょう。AIの時代ではプレッシャーに強い動物性の精神が必要になってきます。

## 自動車の未来

自動走行の前に、道路をどうやって造るかが課題になります。完全な自動走行するには、道路にセンサーを設置することも必要になります。しかし全ての道路にセンサーを埋め込むことは、お金の面も含めて不可能です。車1台しか通れない道路(駐車場の前とか)が日本には沢山あります。センサーのないところは手動運転にならざるを得ないでしょう。そうしますと、自動運転による先進的自動車立国となるには、国民全員が免許を持って、運転免許を義務教育化しないと難しい。

自動走行はルンバ(掃除機)と同じようなものです。車は朝送ってくれて、夕方になったら迎えに来てくれるわけです。それ以外は充電ステーションで充電している。こうした観点も含めて考えると、私は、ハイブリット(リチウムイオン電池の限界)、水素(水素ステーションの維持費)、EVの中では、最終的にはEVに軍配が上がると考えています。

## 金融取引の未来

全ての取引がEDI(電子取引)で情報が交換されるようになれば、帳簿作成は不要になります。企業、個人を問わず決済は全て自動決済され、不正データが入る余地がなくなる時代が必ず来ます。監査という観点から検証する人は必要かもしれませんが、それもAIができるのです。

## AIとの付き合い方

上下の関係にはならないことが重要でしょう。人間の指示の元にAIが存在するように、悪いことを考えさせないように学習させることが、大切です。データ解析とシミュレーションに絞って仕事をさせることが良いのではないのでしょうか。

## AIの怖い話

人の感情がわかる眼鏡や、位置情報が特定できるビーコンを研究しているところがあります。怖い話です、感情がわかれば女性を口説くことも簡単になりますが、位置情報の特定で浮気は絶対にバレてしまいます。

## 最適化の世界

マイナンバーの利用で誰がどの企業で、どこで働いているかがわかる。そこにAIが加わると、その仕事はその人に向いているかどうかもわかってしまうことになります。さらに、AIが適材適所を判断してくれる。つまり、社会全体が適正化配置になるわけです。産業や人員構成の偏りのないある意味、公平な世界になります。こういう状況が受け入れられないと反社会的勢力となってしまいます。

AIが発展すればするほど、無駄がなくなる代わりに、情緒的なことはすべて排除されてしまうことになります。これまでどうにかごまかしてきたことが、透明性の高い社会となり、全部わかってしまう。そういう意味では真面目に生きないといけません。このような状況に、耐えられない人の負担はとて大きいものになるでしょう。

## 未来予想

ハードの会社がAIやIoTに進出する時代です。ITが国の産業の基盤になっているわけですが、これは乱世の時代に突入することを意味します。明治維新以来の縦型産業構造は崩壊し、横型の産業構造になります。横型は壊れにくく、強い。例えば、アサヒビールとキリンビールが輸送は一緒にやるというニュースがありました。人口が減



少した世の中では、こうした合理化が必要になってきます。各企業で、消費者に向いている部分(製品)だけは自社で行い、それ以外はほかに任せる、一緒に行くというような合理化が進むでしょう。

国会議員の方には申し訳ないですが、今のままでは地方創生はうまくいかないのではないのでしょうか。人口減少のほうは、スピードが速く、ほとんどが過疎地になってしまうからです。そういう意味では、道州制への移行は避けられず、人口が政令指定都市に集中し、7つくらいの道州制で管理したほうがコストも下がります。併せて、小泉議員が問題定義したけれども、農地も大きな課題です。結局は、企業が引き受けるしかなく、農地を借りて賃料を払い、AIを駆使して生産物を輸出するしかないでしょう。

現在、1億2千万の人口がいて、労働人口は64百万人しかいない。つまり、64百万人が56百万人を食べさせなければならぬことになります。人口減少が進むと補助金が必要なくなってきて、合理化されます。失業者は限りなくゼロに近づき、若ければ誰でもいいようになってきます。

こうした面から考えると、アメリカは大変でしょうが、日本は人口が減少しているから最もAIを導入しやすい国であり、成果が出せる国だと言うことができます。

過去の話をするところがあるが、過去の事は自慢にならないし、将来の役に立たません。これからは、予測される未来に一番近づく方法を考える人だけが勝者になります。

AIを導入することは、マクロ的に見れば、人口減少に十分対応できる方策であると言えるでしょう。生産性を上げるためには、AIは絶対必要です。しかし、AIを導入することは、人間にとって非常に負荷がかかることも、忘れてはなりません。それに耐えられる人間にならなければいけません。

もし、強い心を身につけたい方は是非、私の柔道場に来ていただければと思います。

—今田 雄一 H4立高一

## 荻原紀男氏 略歴

- 1958年 東京都出身
- 1980年 中央大学商学部卒業
- 1983年 公認会計士試験合格  
アーサーヤング会計事務所(現 アーンスト・アンド・ヤング)入所
- 1988年 朝日監査法人(現 あずさ監査法人)転籍
- 1996年 荻原公認会計士税理士事務所開業し独立
- 2000年 株式会社豆蔵(現 株式会社豆蔵ホールディングス)創業、取締役就任
- 2003年 同社代表取締役社長就任  
税理士法人プログレスを開業、代表社員就任
- 2014年 一般社団法人日本コンピュータソフトウェア協会 会長就任
- 2016年 一般社団法人IT団体連盟 幹事長就任

## 立教経済人クラブ 2016年度 第二回 朝食勉強会

## 企業の“ありよう”を考える ～ぴあのCSV活動～

講師：ぴあ株式会社 代表取締役社長 矢内 廣氏

私は、1972年中央大学法学部4年の時に情報誌「ぴあ」を開始しました。全く何もないところからのスタートでした。当時の出版・流通の問題、その他様々な問題に遮られ、そのスタートは大変厳しいものでした。その中でも、東京の89店舗に直接「ぴあ」の取り扱いを依頼、その4年後には1,600店舗にまで拡大しました。そして毎月毎号の定期刊行物としては1号当たり10万部、首都圏で最大で50万部まで売れた情報誌へと発展しました。例えば、最近よく皆さんがご覧になる「週刊文春」は、全国で66万部、首都圏では33万部を販売していますが、その規模との比較をみても当時を代表する情報誌となりました。

しかし、「ぴあ」も2010年に休刊となります。インターネットの時代となり、以降「ぴあ」はネットでの在り方を模索しています。

「ぴあ」の一番の転機は、1984年の「チケットぴあ」の開始でした。そして、1993年には、当時の電電公社とプッシュ電話回線を使った初めてのオンライン販売を始めました。今日では、インターネットを利用したオンライン予約、38,000店舗のセブンイレブン、ファミリーマートでチケット販売を行っています。いわゆるエンターテインメントの販売事業は、「ぴあ」の中核事業です。そもそも、この「チケットぴあ」の始まりは、劇団四季の創始者の浅利慶太さんとの出会いでした。当時浅利さんは新しいミュージカル「CATS(キャッツ)」のロングランの講演を定着させたいという夢を持っていらっしゃいました。ロングランの成功にとって、下記の3つの要件があると浅利さんは強くおっしゃっていました。

- 要件1. 良いコンテンツ＝「CATS(キャッツ)」がある!
- 要件2. 劇場・小屋が良い(日本は1か月単位でしか貸してくれない、埋まっている)＝解決策として浅利さんは自らで小屋を建てることに!
- 要件3. コンピュータでチケットを売る仕組みが必要＝一度に10万枚を売る仕組みは、コンピュータなら創れる!

当時1983年、コンピュータを使ってチケットを販売する仕組みを創るというのは、浅利さんの言葉を借りると、「業界にとんでもない革命を起こす。」と。そして「CATS(キャッツ)」は大成功を収めました。

「ぴあ」は2002年に東証二部上場、2003年には一部上場を果たします。上場の前、1998年に「ぴあ」は、「ぴあアイデンティティ」を発表しました。「ぴあアイデンティティ」には人間一人一人の人格は「経済性」と「趣旨性」の内容とバランスによって形成されるという考え方を基本としています。そして、「ひとりひとりが生き生きと。」という「ぴあ」の理念が生まれました。「ぴあ」が基本理念を立ち上げるのには、ずいぶん時間がかかりました。創業してからずっと、今までやってきたことを振り返りながら、実は1996年あたりから21世紀を迎える「ぴあ」はどういう姿になっていなければならないのか、21世紀の戦略を考えるためにプロジェクト化までして進めました。しかしその中で社員の皆さんから出たことは、「ぴあ」の活力が失われているという発言でした。私は、社長としては困りました。結局21世紀の戦略策定は延期することとし、「ぴあ」の活力を取り戻すにはどうしたらよいか、を考えることとなりました。そこで考えたのが企業理念の明文化が必要だということでした。一般的な社是ではなく、社員が考え、社員がこれだと思ふものを決めればよいと考えました。そして生まれたのが、「経済性」と「趣旨性」のバランスによる発展という考え方、そして新しい企業理念「ひとりひとりが生き生きと。」です。企業理念としてはめずらしい、何の会社?と思われるかもしれないですね。

「ぴあ」にとって「趣旨性(社会的価値)」とは何か、

象徴的に行っている活動が二つあります。一つは、「PFF(ぴあ フィルム フェスティバル)」、もう一つは「チームスマイル活動」です。

現在日本の映画は絶好調です。「君の名は。」は興行収入240億円を超えました。新海誠監督は30歳台です。そしてプロデューサーも。昔は、映画の人気といえば、洋画→邦画の順でした。ここ何年前からは、邦画→洋画に代わりました。こうした新しい時代を作るのは若い人たちです。PFFの中心は学生、自主映画作品のコンペティションです。グランプリ、準グランプリを決め、表彰を行います。発掘された新しい才能は日本全国で2週間にわたり上映会が行われます。

また、PFFには映画監督を選考して奨学金や映画作品制作支援を援助プログラムとして提供する「PFFスカラシップ」を設けています。今まで23本のスカラシップ映画ができました。PFFはプロの映画監督になるためのブリッジだと考えています。今までに110名もの若き映画人を育成してきました。

実は1982年、「ぴあ」に証券会社の人がやってきて、こういう時だから上場を目指しましょうと言われて、勉強を始めたことがあります。すでにPFFは「ぴあ」にとって大切な活動になっていました。そこで私は証券会社の人に「PFFお金がかかるけど、売り上げはない、これで上場できますか?」と質問しました。しかし、利益を出して株主に還元するのが上場です、それは「No」だと言われました。その後「ぴあ」は2002年に上場しました。何よりもシステムのバージョンアップが必要となり、その多額の費用を賄うためには上場をその手段として求められた時でした。その時も私は、証券会社の人に同じ質問をしました。PFFは「ぴあ」にとってそれほど大切な活動だったので。「上場した後もPFF活動は継続できますか?」聞髪入れずに答えが返ってきました。「こんな素晴らしいこと!続けてください!」どの証券会社も同じ反応。「企業の社会的貢献、文化的貢献が必要なのです。」たった20年で世の中の状況、価値観がこんなに変わっていいのかと思ったくらいです。

もともと「ぴあ」の仕事は文化招致をすることでした。今後は文化を新しく創る、若い才能を育成することも仕事として取り組むことに喜びを感じました。新しい文化は、若い世代からしか生まれてこない。小さな芽は、どう育つかかわからない。本来は文化庁の仕事かもしれませんが。小さな芽は気づかれずローラーで踏みつぶされる。守る役割を誰かがする。その中からいくつかが芽が育ち、枝を伸ばす。誰かがやらねばならないことだと感じました。PFFは、これから新たなステージを迎えます。一般社団法人化を行い、「ぴあ」から切り離します。業界全体で新しい日本文化創りに、そして若い世代の育成に、前に進んでいきたいと考えています。

「ぴあ」のもうひとつの「趣旨性」の活動は「チームスマイル」という東日本大震災復興のための活動です。私は福島県いわき市の出身です。いわき原発から30km、今もお風評被害に悩まされています。我々はエンターテインメントを通じて復興支援をしたいと考えました。支援は一度きりのモノではなく継続して復興支援を行うべきと考えました。震災直後からエンターテインメントを通じて被災地の方々に勇気や元気を届けたい、そう信じて始まったボランティア活動は、復興が長引くにつれ、その継続性が最大の課題と考えました。

そこで、我々が出した答えは二つでした。一つは活動拠点の確保、もう一つはその解説と運営を賄うための経済性の確保です。私たちはそれまでのボランティア活動を正式に一般社団法人化し、東北三県(福島、宮城、岩手)と東京と共にその活動拠点となるシアターを開設することにしました。これが「PIT(ピット)」です。経済性については、ずいぶん考えました。福島、

宮城の100人、200人収容のPITでは、赤字となります。仙台のPITの収容は1,200人、収益はこれでトントンです。東京豊洲のPITでは3,100人収容でき、ここでは十分な収益を上げることが可能です。これら4か所のPITトータルで収益を合わせ、経済性を保つことが賢明と判断しました。運営には経営ノウハウが必要です。自らがリーダーシップをとるとともに民間主導での運営が必要だと考えました。おかげで多くの企業、団体からのご協力、ご寄付、ご支援をいただきました。いろいろな人、企業のおかげでチームスマイル活動はスタートできました。そして、業界人、文化人、あらゆる人が参加してくれることで多くのコンテンツを供給し、運営することもできるようになりました。

昨年3月11日、震災から5年目、最後の4つ目の仙台PITが完成しました。仙台PITの建設には、プリンセスプリンセスの皆さんに大変なお世話になりました。震災後、プリンセスプリンセスは、音楽でお返しをしたい、支援をしたいと、コンサートの売り上げ5億円のうち2億円を寄付、残りの3億円をチームスマイルの活動に共鳴し、仙台PITの建設へ寄付していただきました。震災後、建築費が3割以上の異常な高騰しており、一時は建設が危ぶまれた時もありました。3月11日の?落しコンサートは、もちろんプリンセスプリンセスです。チケットはあっという間の完売でした。

PITでは、様々な業界の著名人に講演もしていただいています。第一回は有森裕子さんに講演していただきました。彼女の人生訓はアスリートだけではない伝わり方で多くの人の感動を生み出しました。スポーツ選手にも参加いただきました。香川真司さん、清武弘嗣さんには小学生向けのサッカースクールを開催していただきました。川淵三郎さんには、「キャプテン・サミット」として、被災地のこどもたちのリーダーを育成する。子供たちの悩みに答えてあげるという機会を持ちました。ミュージシャンからは、布袋寅泰さんに参加いただき、100人から200人の会場で、アマチュアバンドの指導を行っていただきました。女優 倍賞千恵子さんには、映画「世界で一番美しい村」の上映に参加いただきました。倍賞さんは、この映画のナレーションをされています。舞台となったネパールのラブラック村は、2015年のネパール大震災で被災し、多くの被災者を出しました。実は、ネパールは、アジアの最貧国といわれながら、2011年3月の東日本大震災の折、東北に義援金と復興の祈りを届けてくれた国の一つでした。ラブラック村で暮らす家族の、貧しいながらも、温かく優しい兄弟愛、親子愛を、倍賞さんのナレーションはネパールの人々の輝きとして伝えてくれました。

PFFはじめ、チームスマイルの活動には、これからも多くの皆様の支援で成り立ってゆくものと思います。我々の唱える「CSV」に共鳴いただける方には、是非ご支援、ご協力をいただけると幸いです。

矢内 廣様

福島県いわき市に生まれ、中央大学在学中に起業、タウン情報「ぴあ」の発刊

「チケットぴあ」の創業者であり、ぴあ株式会社 代表取締役社長(現任)

「ぴあ」の創刊後、ぴあデジタルコミュニケーションズ株式会社 代表取締役社長、代表取締役会長(現任)等、ぴあ主要グループ会社の代表を務める

一般社団法人チームスマイル 代表理事、社団法人日本雑誌協会理事、日本アカデミー賞協会組織委員会委員、など数々の役職を務めている

同社の代表的な活動である「PFF(ぴあフィルムフェスティバル)」は、プロの映画監督の発掘と育成を行う映画祭で今年39回目を迎え、若手監督の登竜門として定着している

一狩野 英樹 S63化一

# Christmas Party 2016



2016年12月6日(火)毎年恒例の2016クリスマスパーティーがホテルニューオータニで開催されました。今回は会員とお子様を含めたご家族、ゲストも含めて総勢66名のご参加をいただきました。

定刻通り19時に、司会の二瓶豊氏(H10法)より開宴が宣言されスタートしました。和田成史会長(S49営)からのご挨拶では、経営されている会社が20年程前に行き詰ったときに、出会ったカトリックの先生の言葉に救われ、危機を脱することが出来たお話しなどをご披露いただきました。その後、守屋裕之財務委員長(S60営)による聖書朗読が行われました。続いて、立教大学チャプレン中川秀樹司祭によりクリスマスに関するお話を頂き、祝福と感謝のお祈りが捧げられました。そして、依田達夫氏(S47営)による乾杯の後、食事・歓談の時間が始まりました。参

加された皆さんは一年を振り返りながら、美味しい食事を楽しんでいました。

歓談中には、立教大学ビックバンドNew Swingin' Herdによる演奏が披露され、間近で聴く大音量の音楽の迫力に大変盛り上がりました。また、クリスマスパーティーに参加されている会員のご子息が4月に立教小学校にめでたくご入学されるということで、伊藤守副会長(S49観)より入学祝いをサプライズで進呈しました。そして、皆さんお待ちかね恒例ビンゴ大会。立教経済人クラブが誇る、美しい女性陣(?)による司会の下、参加者皆様が持ち寄られた豪華な景品を求めて、こちらも大変盛り上がりました。

19時より始まったクリスマスパーティーもあっという間に2時間が経過し、名残惜しいまま最後は、梅田憲司副会長(S50経)に中締めをしていただき終了となりました。

—飯泉 斉 H10法—

## ウィリアムズ主教が召し上がった日本茶を訪ねて

### 第3回：日本茶の世界で活躍するOB 赤坂銘茶土橋園 土橋武雄社長

千代田線の赤坂駅から歩いて3分ほど、一ツ木通りに面した「赤坂銘茶 土橋園」。この6月に立ち上がる港区立教会の会長 呉東富先輩にご紹介いただいて土橋武雄社長がOBと知り、訪ねてきました。

土橋園は明治25年に創業。2度の戦争や震災を乗り越えて125年にわたり赤坂の地で暖簾を守ってきました。土橋社長は経済学部経済学科を卒業後、営業からはじめてお兄さん2人が社長を務めた後、5代目の社長に就任。2代目が昭和42年から始めた主力である自動給茶機の事業を伸ばしながら、新しい

商品の開発や販路の開拓に意欲的に取り組んでいます。

ラスベガスで開催されるWorld Tea Expoにも3年連続で出展して、抹茶パウダーで受賞しています。「歴史を守り、つなぐためには常に改革が必要」と、バナナチョコや柚子風味の茶釜がいらぬ抹茶を開発するなど、常にお客様の声に耳を傾けています。ただし「味はゆずらない」のがポリシー。自動給茶機が伸びたのも、給茶機で美味しくはいるお茶の開発を続けてきたからこそ。

たくさんのチャレンジをされていますが、全てが成功したわけではありません。「10やって1つ当たればいい。正面からぶつかってダメなのは仕方ない。チャレンジしないことがよくない」現在も馬術部の監督をしている土橋社長。学生時代に体育会で育んだ精神が活かしているのでしょうか。

大きな変動を迎えようとしている茶業界でますます存在感を増す土橋園、立教の星ですね。赤坂にお立ち寄りの際は訪ねてみてはいかがでしょうか?馬術部の後輩で、土橋園の看板でもある顧問の西村道彦さん

もいらっしゃいますよ!

次回もお茶業界で活躍する先輩へのインタビューを予定しています。

《赤坂銘茶土橋園》

東京都港区赤坂3-17-8 TEL:03-3582-3788



(写真:左から西村顧問・満木・土橋社長)

満木葉子(みつきようこ)  
株式会社ねこばんち代表取締役/  
一般社団法人日本茶アンバサダー協会代表理事  
☆日本茶応援サイト「ENJOY!日本茶」  
www.nihoncha.org/  
☆株式会社ねこばんちFBページ  
www.facebook.com/kabushikigaisyanekopanchi/



## 第70回立教経済人クラブゴルフ会



2016年12月10日(土)、第70回立教経済人クラブゴルフ会が14名の参加者のもと開催されました。今回は千葉県木更津にある、ザ カントリークラブ ジャパンでした。空は快晴、最高のゴルフ日和でした。11月にプロのトーナメントが開催されたそうで、言われてみれば戦略的なコースでした。各ホールはゆったり造られています。フェアウェイが狭く、アンジュレーションがかなりあり、左足下がりで砲台グリーンを狙う、ということも数回ありました。もちろんグリーンは外しました(^\_^) さらに、ティーショットの落とし所に池があったり、まっすぐ打つとフェアウェイを突き抜けてしまったりとかなり気を遣います。さ

らに当日は10メートルの風が吹いていてこれもタイヘンでした。グリーンはワングリーンで大きく早いです。登りにつけられればよいですが、下りで外すとカップ過ぎから更に早く、私はグリーンから出てしまいました(^\_^)

この難しいコースで優勝は44,45の89という素晴らしいスコアでまわりました、斉藤佳子さんです。なんとグロスでも2位でした。和田会長から優勝カップと豪華グルメセットが授与されました。準優勝は47,44の91でまわりました、和田会長でした。事務局長の井口さんから準優勝カップが授与されました。ベスグロはなんと、このコンディションなのに42,39の81でまわってしまった、小松秀之さんでした。豪華グルメセットをゲットです。

今回も様々な賞品を皆様にお持ち頂きましたが、年末を意識されてか、お酒類がとても充実していました。ワイン、シャンパン、ウイスキー、ビール、焼酎に日本酒と迷ってしまいます。どれもみんな美味しい銘柄ばかりです(^o^)/ 私はブービーでしたので迷う余地はなかったですが(^\_^) それでも美味しい焼酎2本セットを頂き、たいへん美味しくいただきました。

賞品も楽しみです、初心者の方も上手な方もいっぱい参加される気軽なゴルフ会です。次回は7月の開催予定です。是非、皆様のご参加をお待ちしております。  
—長倉 一裕 S59法—

### 世代を超えた勉強会

2017年2月21日「世代を超えた勉強会」が新橋亭に於いて開催されました。今回は、落語家真打でありながら、大正大学客員教授でもあり、うなぎのファストフードショップ鰻屋「宇奈とと」を考案し社長として創業に携わるなど、マルチに活躍する金原亭世之介師匠に「言葉のパワー」と題してご講演をいただきました。タイトル通りS33年卒の大先輩から、H27年卒の若手まで世代を超えた会員・ゲストを含め27名のご参加をいただきました。

開会にあたり、大野晃氏(S33 森永乳業(株)名誉会長)よりご挨拶をいただいた後、いよいよ金原亭世之介師匠にご登場いただき、まずは「時そば」の落語を一席ご披露いただいた後に講演をしていただきました。

講演では、ご自身が大学講師になった経緯から始まり、何故「挨拶」が大切かということについてご説明いただきました。講演の中では、参加者にも実験台(?)としてお手伝いいただき、挨拶の仕方によって、実際に身体の柔軟性がある事象について詳しくお話をいただきました。自己誘導、視覚誘導といったことにより、脳が反応して人間の発揮する能力が変ることを参加者自ら体感することで、納得できました。

後半では、ビジネスの世界で起こりうるシチュエーションにもふれられ、部下などの叱り方でもコツがあることなどをお話いただき、日本語



の持っている特性についても理解をすることができました。

火事場の馬鹿力に代表されるように、人間は普段はリミッターをかけており本来持っている能力を100%発揮しておらず、それを時々で開放することが大切。リミッターを開放しないと脳はその状態に慣れてしまい戻らなくなってしまう。そうした状態を回避するためにも「挨拶」をして能力を引き出すことが大切である。流石は噺家の師匠であり、講演も面白おかしく世代に関係なく引き込まれる内容であったという間の時間が過ぎてしまいました。

講演のあとは、世之介師匠とお弟子さんを囲んで、呉先輩の新橋亭の美味しい料理を食べながら歓談です。若手代表品川(H8卒)の乾杯に始まり、師匠と会員同士の交流に花が咲きました。最後は、倉石昇氏(S33卒)に中締めをしていただきお開きとなりました。

今後も、楽しめる企画を開催してまいります。普段なかなかお話しする機会がない世代を超えた交流も行えますので皆さまのご参加をお待ちしております。  
—品川 高穂 H8済—

# 立教大学経済学部のカリキュラム教育の取り組み

## 経済学部正課インターンシップの実施報告

授業担当: 遠山恭司・三谷 進

経済学部では、正課インターンシップの授業を開講して14年目を迎えます。この間、立教経済人クラブの会員企業のみならずには多大なご支援をいただき、2週間にわたる就業実習を受け入れていただいています。昨今はやりの就職活動を見据えたインターンとは異なり、ビジネスの現場にどっぷり浸かって本格的な研修を受けられるのが、本授業の特徴です。2016年度は、AMWコンサルティング(株)、SBI損害保険(株)、(株)三栄コーポレーション、(株)スキャンインター、(株)フジタの5社にお世話になりました。以下、受講学生の声を報告書から抜粋・改変して、お届けします。

### ■ 村越樹生(会計ファイナンス学科4年) AMWコンサルティング(株)

研修先の社長をはじめ、デザイン会社や顧客企業の方々など、たくさんの魅力あるリーダーと出会う機会があり、皆がついていきたいと思う人はどういった人か、考える機会がありました。また、社会で必要とされる力は、学力や資格といった、数値化・可視化できるものだけではないのだと、改めて強く思いました。この講義を通じて、「与えられた人生ではなく、自分で切り開いていく人生を歩みたい」と強く思うようになりました。この授業は、非常に費用対効果が高いといえます。



外部講師のお話に沸く受講生



和気あいあいと報告書作成に取り組む受講生

### ■ 萬 香里(経済政策学科4年) (株)フジタ

そもそも仕事というのはどのようなものかという問いに対し、輪読やディスカッション、OBの講義を通して、自分の中で熟考してから2週間のインターンシップに臨めました。インターンシップ中は、会社の取り組みそのものよりも、そもそもどのような人が働いているのかに興味を湧き、会社で働いている一人一人の思いを理解することに重きを置くようにしました。働いている人の姿勢や仕事観というのが多種多様だったのにも関わらず、自分の引き出しにすんなり入れることができたのではないかと思います。

### ■ 柴崎 哲(経済学科3年) SBI損害保険(株)

社員の方に私の長所・短所や性格についてフィードバックを頂いた際、私が今まで同じようなコミュニティで同じような人間関係で育ってきたことを見事に見抜かれました。より多くの人と関わって、多くの経験を積むべきことを教わりました。別のフィードバックでは、論理的思考力を得るためのヒントは、「相手の気持ちに立つ」ことだとのことでした。物事に対して自分がどれだけ考え抜いたかが、論理的なプレゼンテーションにつながると教えていただき、実際に活かしていきたいと思えます。

### ■ 杉本雄太(経済学科3年) (株)スキャンインター

書き切れないほど、いろんな意味で成長できました。なかでも、自分の甘さを知ったことだと思います。ただ貿易の仕事がしたいと思っていただけで、理由を深く考えず、貿易を通して何を成し遂げたいかという目的意識が欠けていました。それに気が付き、見直した結果、自分の軸となるものと、明確な目標を持つことが出来ました。考えを即行動に移すことを、習慣化していきたいです。

### ■ 山口真弘(経済学科3年) (株)三栄コーポレーション

二週間のインターンシップに行くことで、専門的な知識を得ることができました。また、教授や外部講師からは、目標達成をするための方法やビジネスマナーの大切さ、今後の社会や経済の動きを考える重要などを学びました。高い次元のコミュニケーションができるようになるために色々な人と話し、さまざまな角度からものが見えるようになるために本を読み、そして、自分ができることを増やすために多くのことを学んでいきたいと思えます。

最後に、立教経済人クラブ産学連携担当の林雄太氏のご尽力と、受け入れ表明をいただいたすべての企業のみならず心より御礼申し上げます。

和田成史会長をはじめとして立教経済人クラブ会員の皆様には、インターンシップ学生の受け入れなど経済学部のキャリア教育に厚いご支援とご協力を頂いております。まずは、この場をお借りし深く感謝申し上げます。また、会報委員会のご厚意を賜り、会報第65号から毎号にわたり経済学部のキャリア教育に関して大々的にご紹介いただきました。この点につきましても重ねて感謝申し上げます。

経済学部では3学科の体系的カリキュラムと伝統的なゼミナール教育に加え、キャリア教育と国際化教育を柱に近年の学部教育を展開しております。キャリア教育では社会科学系学部として全国に先駆けて正課科目「インターンシップ」を開設し、さらに協力企業と連携して展開するPBL(Project-Based Learning)型の「課題解決演習」をはじめとして、正課あるいは正課外で多彩な教育プログラムを展開しています。これらキャリア教育を通じて、学生たちには主体的な思考力と積極的な行動力を身に付けて欲しいと考えています。

社会の様々な分野で活躍される立教大学の先輩方のご支援無くして、経済学部がこうした教育を進展させることはできません。立教経済人クラブの諸先輩方には、これまで以上に経済学部教育へのご指導とご支援をお願い申し上げます。

経済学部長 須永徳武

## グローバル化する社会で自分の未来を切り開くワークショップ「INSPIRE」実施報告

経済学部のグローバル系キャリア教育プログラムとして今年度新たに加わった「INSPIRE」。海外での実施部分を含めた昨年度の「グローバルゼミ in シンガポール」とは異なる「非渡航型」のプログラムとして、11月から12月にかけて下記3ステップで実施しました。(inspire:~に刺激を与える、動機づける)

### 第1回：自分と他者の違いを知る

～異なるタイプの人とのコミュニケーション方法を考える

### 第2回：文化の違いを知る

～異文化の構造を知り、対応方法を理解する

### 第3回：違いを乗り越えるために

～自分の個性を自覚し、今後の具体的な行動計画を立てる

プログラム全体を通してペアワークやグループワークが多く、自分のコミュニケーションスタイルについて理解するとともに、自分があたり前だ

と思っていることが必ずしも相手のあたり前ではないことなどを、ワークを通して実感できる内容となりました。

また最終回では、自分の価値観や将来の姿などをお互い話したり、全員に発表したりするワークをいくつか行いました。自分の考えを話して相互に率直なフィードバックを行うことで、自分についての理解が深まると感じた学生も多かったようです。これから将来のキャリアを考える上でも有意義な機会になったことでしょう。

学部横断で、それぞれに自分の未来に想いをもって集まった学生たちはお互いから学ぶ意識も高く、事後アンケートでは「他の学生からまさに『INSPIRE』された」「最終回で『じゃあ、自分はどう生きるのか?』を説明して質問をってもらうことで、自分のやりたいことについて納得できるようになった」などのコメントがありました。今回のプログラムを通じて感じた「個性」「自分らしさ」を大切に、ここで得た仲間とともに未来へ羽ばたいてほしいと思えます。

# 建学の精神をたづねて リベラルアーツと建学の精神の方向性

神保町シンクタンク  
黒田裕治(78年3月 法学部卒)

プロフィール  
1955年7月4日 広島県尾道市 生まれ  
立教高等学校 立教大学を経て  
近畿日本ツーリスト株式会社勤務  
2012年、独立して安曇野シンクタンク創立に加わり、  
現 神保町シンクタンクを主宰

さて、66号から掲載させていただいた「建学の精神をたづねる」シリーズもいよいよ大団円を迎えることとなりました。築地居留地の一角に1874年、立教の「灯り」を燈したウィリアムズ主教の「道を伝えて己を伝えず」という他者のために尽力した姿勢は現在も建学の精神の礎として受け継がれています。

最終回にあたり、第1回目からの展開をまとめながら2024年立教大学創立150年に向けたRIKKYO VISIONという未来に繋いで参りましょう。

筆者は立教高等学校よりご縁をいただき、1978年に大学を卒業、1alumni(アルムナイ)として立教観光クラブやグアム立教会、KNT立教会、立教経済人クラブ、校友会代議員のメンバーとしていろいろな機会を通じ、母校と関わりを持たせていただきました。筆者に取って「立教」とは池袋の建物そのものであり、在学中はもちろん、卒業してからも薦が絡まるあの本館の回廊をくぐって中庭から第一学食へ連なる空間こそが立教スピリチャルを受け取る時空であります。建学の精神に近づきたいという気持ちの原点であり、タイムスリップをする空想の出発地でもあります。まずは立教発祥の地「築地」に思いを馳せてこのシリーズが始まりました。歴史はまさに江戸時代末期、幕末の動乱の最中にウィリアムズ主教が長崎に降り立ち、大阪を経て築地にたどり着いたのでした。新政府樹立から6年後に立教学校を設立しました。築地は築地本願寺の建立(移築再建)のきっかけでもある明暦の大火(：振袖火事 1657年 江戸の大半が焼け出され、江戸城天守閣をも焼失した大規模火災)の復興に伴う残土処理の埋設でできた埋立地で、幕府は大火後江戸を防災都市に改造するべく、沿岸の埋め立てを推進させ、築地には社寺や武家屋敷を移築させました。さて築地はミッション系大学の発祥地であることを66号、67号に掲載しましたが、慶応大学の前身である福澤諭吉の蘭学塾は武家屋敷の一つ豊前 中津藩奥平家中屋敷で開塾したのはこのような経緯があったからです。ついでに早稲田大学の創立者で有名な大隈重信も築地に住んでおり、自宅を梁山泊と名付けていました。(梁山泊：中国の水滸伝で有名な有志の巢窟という意味)つまり 井上薫、伊藤博文、渋沢栄一、前島密、大江卓らが出入りし夜通し議論を重ねていたからであります。

このように、築地は日本の夜明けに関わり新しい発想と自由な精神のもと、新しい国家建設に志を持ったものが集まっていた、まさに梁山泊でした。ウィリアムズ主教の元にも西洋の最新の知識や技術を得るための術として英語を学びに多くの

人々が集まったことは容易に想像できます。6大学のうち3つが揃っているのも何か不思議な縁を感じますね。

さて、68号では明治の新国家建設のスローガンである「殖産興業、富国強兵」を推進させるための資金、つまり外貨獲得の国策が旅行業及び観光業であるインバウンド(外国人旅行者誘致)の発生を促し、その根幹の事業を立教大学の先輩たちが創業し貢献したことを書きました。日光金谷ホテル、箱根富士屋ホテル、そしてインバウンド旅行会社としてのJTBの前身、ジャパン・ツーリスト・ビューローが牽引しました。

時代に翻弄され、時代に受け入れられながら、そして大自然の脅威に苛まれる日本という大地に建学した立教も何かに導かれるように築地を離れて、池袋に移転をします。それは「築地」居留地という役目が終焉することを予見し、新天地を求めて世界に旅立つ新教徒のようでもありますね。

築地で産声をあげた日本の3私学ですが、慶応大学は日本の経済界に人財を供給し、早稲田大学は日本の政治の根幹に人財を輩出し、そして我が母校は観光という新しい価値創造(国際的な関係構築、文化交流の推進、人類幸福につながる自我精神の発達、相互理解のための手段等)の担い手としての役割をミッションとして「築地」というインキュベーターから巣立って行きました。

(もちろん、築地発祥の14大学もそれぞれの使命を持って現在に繋がっています)～69号～

そして前号(70号)では建学の精神の根幹である「リベラルアーツ」について解説して参りました。ライフスナイダー立教学院総理が「本校の教育は元来3つの要点に着目し、知育、体育、霊育である。しかし本学の着目点は霊育にある。」と説いている意味は知育偏重を戒め、知性・感性・身体バランスが取れている教育こそが本学の目指す全人教育であるとしています。すなわちリベラルアーツとは、知性からの自由であることが一番大事であり、「自由の学府」の本質を説いているのではないのでしょうか。知識を追求するあまり、「知」に束縛され、

視野が狭まるようになり自分を見失うことなかとと警鐘しているのでしょうか。現在の母校のリベラルアーツのカリキュラムでは10学部の授業を自由に履修でき幅広い知識や教養を習得できるようになっています。さらにリベラルアーツのカリキュラムを異文化の中でも経験していくグローバルリベラルアーツプログラムが始動しました。(詳細は立教大学のホームページをご覧ください)文部科学省のスーパーグローバル大学創生支援選定大学に選出された母校は創立150年に向けてさらに飛躍することを願ってやみません。6回にわたり立教経済人クラブの会報誌で発表させていただきました。まだまだ、立教の建学に関わった人々の功績を辿ることで現在の立教大学の役割や未来への希望を探っていくことは今を生きている我々アルムナイにとっても大変重要なことと確信しておりますが、それは次回の新シリーズに委ねることとしひとまずの区切りとさせていただきます。このシリーズを始めて、諸先輩からの激励をいただきまことに有難く厚く御礼を申し上げます。また、築地居留地研究会様の寄贈資料から記事の参考にさせていただきました。ありがとうございました。

築地居留地に開設された学校

現在の校名	創立時の校名	地番	年代
1. 慶応義塾大学	蘭学塾	中津藩邸	安政5～慶応4
2. 明治学院大学	東京一致神学校 築地大学 東京一致英和学校	6、17 7 7	明治10～20 13～16 16～20
3. 女子学院	A 6番女学校 B 6番女学校 新栄女学校	6 6 42	3～9 7～9 9～22
4. 青山学院大学	海岸女学校	10→13	10～27
5. 立教大学	立教大学校 立教中学校	37 57、58、59、60	15～28 29～大正12
6. 立教女学院	立教女学校	26、24、25	15～大正12
7. 雙葉学園	築地童貞女学校 女子語学校	46、47 45	14～42 20～42
8. 晩星学園	晩星学園	36	21
9. 関東学院大学	東京中学院	42、43	28～32
10. 女子聖学院	女子聖学院	14	38～40
11. 工学院大学	工手学校	南小田原町4丁目	21～昭和3
12. アメリカンスクール	東京外国人学校	55→17→54	36～大正9
13. 聖路加看護大学	聖路加看護学校	37→56→57	37～現在

築地居留地に開設された学校の位置図



- 6番 A 6番女学校 (明治3～9年)  
B 6番女学校 (明治7～9年)  
(女子学院)
- 7番 東京一致英和学校 (明治16～20年)  
(明治学院大学)
- 10番 海岸女学校 (明治10～13年)  
13番 海岸女学校 (明治14～27年)  
(青山学院大学)
- 14番 女子聖学院 (明治38～40年)
- 17番 東京一致神学校 (明治10～20年)  
(明治学院大学)
- 26番 立教女学校 (明治15～大正12年)  
(立教女学院)
- 33番 サンマー英語学校 (明治16～41年)
- 36番 晩星学園 (明治21年)
- 37番 立教大学 (明治15～27年)
- 41番 慶応義塾 (安政5～慶応4年)
- 42番 新栄女学校 (明治9～22年)  
(女子学院)
- 42、43番 東京中学院 (明治28～32年)  
(関東学院大学)
- 45番 女子語学校 (明治20～42年)  
(雙葉学園)
- 46、47番 築地童貞女学校 (明治8～42年)  
(雙葉学園)
- 17、54番 アメリカン・スクール (明治36～大正9年)
- 57、58番 立教中学校 (明治29～大正12年)  
南小田原町 工手学校 (明治21～昭和3年)  
(工学院大学)

## 新しく会員に なられた方々

(敬称略)

**芦沢 亮介** 平成13経  
税理士法人タクトコンサルティング  
税理士・公認会計士  
〒100-0005 千代田区丸の内2-1-1  
E-Mail: ashizawa0209@gmail.com

**福島 美邦子** 平成1心  
(株)プランニングオフィスRoom375  
代表取締役  
〒107-0062 港区南青山2-27-11  
HILLTOP青山1F  
TEL:03-6721-1966  
FAX:03-6721-1967  
E-Mail: minako\_fukushima@room375.com  
デザインリフォーム・インテリア設計施工

**垣畑 光哉** 平成1法  
リスナーズ(株)  
代表取締役  
〒160-0022 新宿区新宿1-2-5  
第2飯塚ビル3F  
TEL:03-3352-0890  
FAX:03-3352-0891  
kakahata@listeners.co.jp  
出版・ビジネスライティング・メディア運営

**松原 伸禎** 平成12史  
(株)ノーブルウェブ  
代表取締役  
〒166-0003 杉並区高円寺南4-44-6  
ユンズビル3F  
TEL:03-5929-2388  
FAX:03-5929-2389  
E-Mail: matsubara@nobleweb.jp  
ホームページ制作

**鈴木 知恵** 昭和63営  
はしむら薬局  
事務長  
〒169-0075 新宿区高田馬場2-15-6-1F  
TEL:03-3205-1190  
FAX:03-3205-1194  
調剤薬局

## 続・待機児童の話

昨年千葉県市川市で住宅地での保育園建設に対して反対運動がおこり、建設が中止されたことが大きく報道されました。近隣の住民が子どもの声がうるさい嫌だ、として反対運動が起きたわけです。しかし実際は建設予定地の隣接地に住む方々の反対はなく、中心になっていたのは少し離れたところに住む方だったようです。騒動が大きくなり、「子どもがうるさい」という理由に少しずつ批判が集まり始めると、「予定地の前の道が狭い」というもっともらしい理由になっていきました。実はこの後、「あ、保育園の建設って反対していいんだ」という空気が生まれ、各地で保育園建設がとん挫したという話も聞きます。マスコミによる連日の報道をきっかけに待機児童解消の道が一步後退した事例のように思います。また最近では、許された定員以外に正規の入園手続きを踏んでいない子どもが在園していた認定こども園が話題に上っています。認定こども園は幼稚園児(3歳~6歳、おおむね4時間程度の保育)、保育園児(0歳~6歳、8~11時間の保育)と一緒に教育・保育を受けることができる施設です。入園している子どもは本来、市区町村からそれぞれ1号認定、2号・3号認定を受けなければなりません。この認定こども園では、正式な入園手続きを踏んでいない子どもが入園を許可され登園していたわけですね。入りきれない子どもがいるからこそ起きて

しまった事例であるわけですが、これは言葉は悪いかもしれませんが保護者も共犯といえます。監査がある日は登園しない、という約束を守りこども園の帳尻合わせに協力もしたようですし、そもそも本来の手続きをしていないことはよく分かっていたでしょうから。こども園の方は、下駄箱やロッカーから名札をはがしたり、昼寝用のベッドや教材の数合わせをしたりと監査対策に追われたことでしょう。これは保育園ニーズの予想以上の急速な伸びに伴って起きた悲劇でしょう。私にも時折「あなたの園に何とか入園させてほしい」「〇〇保育園に入りたいので口をきいてくれ」といった電話がかかってくる場合があります。すべて丁寧にご説明した上でお断りしています。しかしその依頼されたお子さんが無事に保育園に入園すると「お陰様で入園できました。お手数をおかけしました。」とお礼の電話がかかってくる場合があります。私は繰り返し自分が何もしていないことをお話しますが、大抵先方はまるで私が何かお手伝いをしたようにお礼をおっしゃいます。最後には私も抵抗することに疲れて黙ってそのお礼を聞くことになるわけですが、これはこれで怖いことだな、と特に森友学園の報道を見て感じます。相手は勝手に「田中に頼むと保育園に入れてくれるぞ」と周囲の方に吹聴しているかもしれないわけですから。 —田中 善之 S57法・H22院ビ—

### 2017年度 事業計画書

2017年 5月	第37回定期総会	日比谷松本楼	(募集)
2017年 6月	ウェルカムナイト	場所未定	(募集)
2017年 7月	第71回ゴルフ会	場所未定	(募集)
2017年 8月	経済学部インターンシップ支援	場所未定	(募集)
2017年 9月	女子会	場所未定	(募集)
2017年 9月	他団体交流ゴルフ	場所未定	(募集)
2017年 9月	グルメ会	場所未定	(募集)
2017年 10月	朝食勉強会	場所未定	(募集)
2017年 11月	ウェルカムナイト	場所未定	(募集)
2017年 12月	クリスマスパーティー	場所未定	(募集)
2017年 12月	第72回ゴルフ会	場所未定	(募集)

### 編集後記

私の会社では、女性のバイリンガルスタッフ2名が働いてくれています。当社は不動産業ですが、4年程前から海外の投資家のお客様が増え英語の話せない私達に代わり活躍してくれています。その内1名は、1才のお嬢さんがいてお子様との時間を大切にしたいとの希望もあり在宅勤務も認めています。週3日、10:00~16:30までの勤務ですが、限られた時間の中でモウレッツに仕事をこなして帰ります。見ていて気持ちの良いものです。日本は労働力減少の社会に入っていきますが、カルロス・ゴーンさんの言う通り「ダイバーシティ(多様性)」を認めてあげれば潜在的な労働力はまだまだ沢山あるのだと実感しています。

—神津 港人 H4営—

立教経済人クラブ ウェブサイト  
<http://www.r-keizaijin.net>

立教経済人クラブでの、過去の行事や活動はウェブサイトでご覧頂けます。



Facebookで、立教経済人クラブの  
グループに参加しよう!

セミナーや新製品の告知、交流の場としてドシドシ投稿してください。